

学年部会	テーマ「情報モラル教育部会・6年」	
実践内容	「SNS使用時のマナーと注意点」他	
教科・単元名	6年 総合的な学習の時間 「自分の進む道 / キャリア教育」	

1. 実践活動のねらい

本校では、6年生の総合的な学習の時間にこれからの自分の将来を見つめ、よりよい人生にしていくための素地を作るキャリア教育を行っている。就職することの意義を考えたり、理想の家庭像を考えたりすることで、今まではあまり考えたことのなかった自分の将来を考える時間としている。そのキャリア教育の中に情報モラル教育を入れている。これからのキャリアを作り上げるうえで、情報化社会となっている現状を鑑みて、インターネットをよりよく使える心構えとスキルを身に着けることが肝要であると考えたためである。心構えができていなかったり、スキル不足だったりすることで、友達同士のトラブルも散見される。中学校に進むとインターネットに触れる機会も増え、トラブルもより深刻になるので、そういったものの防止も含めて、本内容に取り組んだ。最終的には、インターネットを安全かつ便利に利用できる児童を目指して授業を進めた。

2. 実践の内容・経過

「日常モラル」と「ネット特性」の理解のために、総合的な学習の時間として3回の授業を行った。ネット特性をキーワード化して、段階的に理解を深めていくよう継続した指導を行った。また、授業参観や保護者会・個人面談を活用して、保護者に対しても情報モラルの重要性を訴えるようにした。

■具体的な手立て

(1) 児童の実態調査 (アンケート)

●児童・家庭の困り感を調べ、ニーズに合わせた指導内容を設定する

一回目の授業に入る直前に、児童向けと保護者向けの2種類のアンケートを取った。児童のインターネット使用率や携帯機器の所持率、また家庭で決めたインターネット使用のルールを確認するためである。その結果、保護者の意識も高く、個人情報の漏えいについての注意や、深夜までの携帯使用禁止などのルールが徹底されていることが分かった。LineなどのSNSを介したトラブルも少なく、比較的安全な状態であることも分かった。しかし、インターネットやSNSにどういった特性があり、その特性故トラブルが起こることや特性そのものを親子同士で会話することや、ルールに組み込んでいないことも分かった。そこで、当初の予定通り、ネット特性の理解を中心に授業を進めることを決めた。

(2) 授業

●児童の身近な話題を教材化する

インターネットやSNSの良さや怖さを児童に知ってもらうため、児童の身近にある店や話題を教材化して、興味を持てるようにした。近所の有名店のインターネット活用や、担任が実際に経験したツイッタートラブルなどを教材として取り上げ、インターネットの特性を考えさせ、その良さやトラブルを引き起こすメカニズムを指導した。

●ネット特性のキーワード化

インターネットやSNSには特有の性質が様々にある。公開性、記録性などの発信する特性や、公共性などの公共のインフラであるということ、また非対面性といった相手の顔が見えないままでコミュニケーションを行う特殊性などがある。児童にもこれらの特性を理解した上で使用してほしいが、言葉が先行しすぎると難解なイメージばかりが残る恐れもある。そこで、特性を表す言葉を児童にも分かりやすい平易な言葉に直すとともに、その頭文字をつなげてキーワード化することで、児童が理解しやすいようになった。特性を4つに絞り、記録性を「残す」、公開性・公共性を「広める・見せる」、非対面性や即時性を「つながる」という言葉に直した。そして、4つの言葉の頭文字「の」「ひ」「み」「つ」をつなげ、「インターネットのひみつ」という合言葉を作った。具体的な特性を忘れてしまっても、合言葉から思い出せる効果を狙った。

●学びを生かす練習～ロールプレイング～

2回目、3回目の授業では文字情報だけでは伝わらない感情の伝え方などを実践的に学んだ。SNSを送る側、受ける側に分かれて、気持ちの伝わるメールとなるよう内容を吟味し、伝え合うロールプレイングの形式で授業を行った。題材としては、イントネーションによって全く反対の意味となる言葉をどう使うかというものを2回目の授業で取り扱った。3回目の授業では、個人情報やネットに挙げる危険性を学ばせた。

1回目 (5月)

教材：近所のお菓子屋のホームページ
ツイッターの写真により廃業に追い込まれたお蕎麦屋さん
ねらい：インターネットの良さ、怖さの理解
ネット特性を「インターネットのひみつ」でおさえる

2回目 (7月)

教材：line上に上がった勘違いしやすい文章
「かわいくない」 「なんで来るの？」
ねらい：相手を思いやった言葉選びと、文字だけでは勘違いを起こす危険性を知る

3回目 (10月)

教材：炎上をもとに個人情報を探り当てられ、さらされてしまった女子高生など
NHKで取り上げられた貧困女子高生 過労自殺した新入社員
ねらい：適切な情報を発信する判断力を身に付ける

(3) 授業外、保護者向け

●授業参観の活用

1回目と3回目の授業は、授業参観の日に行った。インターネットの特性や個人情報の漏えいなどを、家庭でも話し合っただけであったためである。

●保護者会・個人面談での伝達

保護者会や修学旅行説明会など、保護者が集まる時には必ず情報モラルの話をするようにした。児童の実態や、世間で騒がれているニュースなどを織り交ぜながら、常に学校側は児童のインターネットトラブルに配慮している姿勢を示した。個人面談などでは、児童の使い方や保護者の困っていることを聞き、行き過ぎた使い方が見られた時には、親子の間で作るインターネットルールについて、助言することもあった。

考察・成果や課題

インターネット特性を意識しながら、ネットに向かい合う。言葉にするのは簡単なことだが、実践は難しい。一度学んだからと言って、児童が即実践できるわけでもない。インターネット特性がなんであるかを、繰り返し問いかけられるように、3回の授業を計画した。授業を繰り返すことで、「のひみつ」でキーワード化されたネット特性は、しっかりと理解できたようである。また、インターネットのよりよい使い方や危ない使い方などにも興味を持ったようで、「次の授業はいつあるのですか？楽しみです。」との児童の言葉が挙がってきたことは、嬉しい誤算であった。

もともとインターネットトラブルには注意を払っている地域柄があったのか、保護者からの反応も良く、授業内容や意図をよく理解してもらえた。家庭で言っても聞かなくなる時期でも、学校側から情報提供をしたり、ルール作りのきっかけを与えられたりしたことも成果と言える。

社会的に注目され、確実にニーズのある情報モラル教育は、21世紀の学習に欠かせないものとなると感じている。インターネットの技術の向上とともに、未知のトラブルが次々と発生し続けることもインターネットの特性といえるかもしれない。常に新しい情報に触れ、その時勢にあった情報モラル教育が行えるように、マイナーチェンジを繰り返すのではなく、メジャーアップデートを目指して個人的な研究を深めていきたいと思う。